

マルクス、エンゲルス年表

1818	マルクス、生まれる	ヘーゲル没 英・チャーティスト運動高まる フョイエルバッハ『キリスト教の本質』
1820	エンゲルス、生まれる	
1831		
1839		
1841	マルクス、大学を卒業	

【第1の時期】「ライン新聞」の時期

1842	マルクス、「ライン新聞」への寄稿を始め、やがて編集者に。	
1843	マルクス、「ライン新聞」編集部を退く	

【第2の時期】パリ・ブリュッセルで活動した時期

1843	10月、マルクス、パリに移る。	「義人同盟」が「共産主義者同盟」に改組
1844	マルクス『独仏年誌』創刊合併号を発行。エンゲルス「国民経済学批判大綱」を寄稿。マルクスとエンゲルスが出会い、『聖家族』を共同執筆（刊行は1845年）	
1845	マルクス、パリを追放され、ブリュッセルに移る	
1845～46	「ドイツ・イデオロギー」を共同執筆（当時は刊行されず）	
1847	マルクスエンゲルス、「義人同盟」に加入 マルクス、「アンネンコフへの手紙」『哲学の貧困』 同盟大会の委託を受け、『共産党宣言』を執筆（刊行は1848年2月）	

【第3の時期】1848～49年のヨーロッパ革命の時期

1848	4月、ドイツに帰国。6月、「新ライン新聞」を創刊	仏・2月革命、独・3月革命
1849	マルクス、「新ライン新聞」に「賃労働と資本」の連載。5月「新ライン新聞」発行停止。8月、マルクス、エンゲルスそれぞれロンドンに亡命	

【第4の時期】革命運動の来たるべき高まりにそなえ、経済学の研究をすすめた時期

1849	ロンドンで共産主義者同盟の再組織化に努力	
1850	エンゲルス、マルクスの研究生活を支えるためマンチェスターへ行き商会の仕事に	
1851～52	ドイツの共産主義者同盟への弾圧裁判（「ケルン共産党裁判」）とたたかう。その後、同盟を解散	
1857～58	経済学の著作のための最初の草稿（『57～58年草稿』）	
1859	マルクス『経済学批判』第1分冊刊行	

1861～63	『経済学批判』の続編のための草稿を執筆（『61～63年草稿』）	
1863～65	『資本論』第1部の初稿、第2部第1草稿、第3部草稿を執筆	

【第5の時期】 国際労働者協会（第1インタナショナル）での活動の時期

1864	マルクス、国際労働者協会の「創立宣言」「暫定規約」を起草	国際労働者協会（第1インタナショナル）創立
1865	マルクス、国際労働者協会総評議会で「賃金・価格・利潤」の講演	
1867	『資本論』第1巻初版	ドイツ社会民主労働者党（アイゼナハ派）結成
1868～70	『資本論』第2部・第2～第4草稿	
1869		パリ・コミュン
1870	エンゲルス、商会の仕事から解放され、ロンドンに戻る	
1871	マルクス、「フランスにおける内乱」	

【第6の時期】 国際労働者協会の活動を離れて以後の時期

1872	『資本論』第1部フランス語版刊行開始（～75） エンゲルス、「住宅問題」	国際労働者協会、ハーグ大会でヨーロッパでの活動を事実上終える
1873	『資本論』第1部第2版	
1875	マルクス、「ゴータ綱領批判」	独・アイゼナハ派とラサール派が合同大会
1876	エンゲルス、「反デューリング論」の執筆開始	
1877～81	『資本論』第2部・第5～第8草稿	フランス労働党、マルクス執筆の前文を含む綱領を採択
1880	エンゲルス『空想から科学へ』刊行	
1883	マルクス、死去	

【マルクス没後】

1883	『資本論』第1部第3版	
1884	エンゲルス、『家族、私有財産および国家の起源』刊行	
1885	『資本論』第2部刊行	
1886	エンゲルス、『フォイエルバッハ論』を刊行	
1891	エンゲルス、「エルフルト綱領批判」（マルクス「ゴータ綱領批判」を公表）	
1894	『資本論』第3部刊行	
1895	エンゲルス、マルクス『フランスにおける階級闘争』の序文を執筆 エンゲルス、死去	